

フットサル競技規則 2021/22 主な改正

第1条ーピッチ

9. ゴール

両ゴールのゴールポストとクロスバーは同じ形状で、正方形、長方形、円形、楕円形またはこれらの組み合わせのいずれかでなければならない。

10. ゴールの移動

守備側競技者がゴールを動かし、または転倒させ、ボールがゴールに触れた場合、相手チームにペナルティーキックが与えられ、反則をした競技者は警告されなければならない。反則が相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止したものであった場合、その競技者は退場が命じられなければならない。

意図的か偶発的にかかわらず、攻撃側競技者によってゴールが動かされた場合、得点は認められるべきでない：

- ・ 偶発的な場合、試合はドロップボールで再開される。
- ・ 意図的な場合、ゴールがボールに触れたならば、相手チームに直接フリーキックが与えられ、競技者は警告されなければならない。
- ・ 意図的な場合、ゴールがボールに触れなかったならば、相手チームに間接フリーキックが与えられ、競技者は警告されなければならない

第4条ー競技者の用具

4. その他の用具

膝および腕のプロテクター

膝や腕のプロテクターを着用する場合、シャツの袖の主たる色と(腕のプロテクター)、ショーツまたはトラックスーツのパンツの主たる色(膝のプロテクター)と同じ色でなければならない、過度に大きなものであってはならない。

色が合わせられない場合、シャツの袖やショーツ(または、着用する場合はトラックスーツのパンツ)がどのような色であっても、黒または白のプロテクターを着用することができる。シャツの袖またはショーツ(または、トラックスーツのパンツ)と色が合わないプロテクターを着用する場合、そのプロテクターはすべて同じ色でなければならない(黒か白で)

第5条ー主審・第2 審判

2. 主審・第2 審判の決定

主審・第2 審判は、プレーを再開した後、もしくはタイムキーパーが音で知らせた後に、第1ピリオドまたは第2ピリオド(延長戦を含む)終了の確認をしてピッチおよびその周辺から離れた後、または試合を中止させた後は、再開の判定が正しくないと感じても、またはその他の審判員の助言を受けたと

公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFA ハウス

Tel.050-2018-1990 Fax.03-3830-2005

www.jfa.jp

しても、それを変えることはできない。

3. 職権と任務

主審・第2審判は、(...)

- ・ プレーを停止し、(...)、次の場合に限られる。(...)
 - ペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者がゴールキーパーとなったとき。

第6条—その他の審判員

2. 職権と任務

タイムキーパーは、第7条の規定に基づき、次により試合時間を確保する。

(...)

- ・ キックイン、ゴールクリアランス、コーナーキック、キックオフ、フリーキック、ペナルティーキックまたはドロップボールの後に、再び時計を正しく進める。
- ・ 得点の後、ペナルティーキックまたはフリーキックが与えられた後、もしくは競技者が負傷した後に、時計を止める。
- ・ 主審・第2審判が時計を止めるように合図したときに、時計を止める。

第7条—試合時間

2. プレーのピリオドの終了

次のことが起きたときに、キックは完了する。(...)

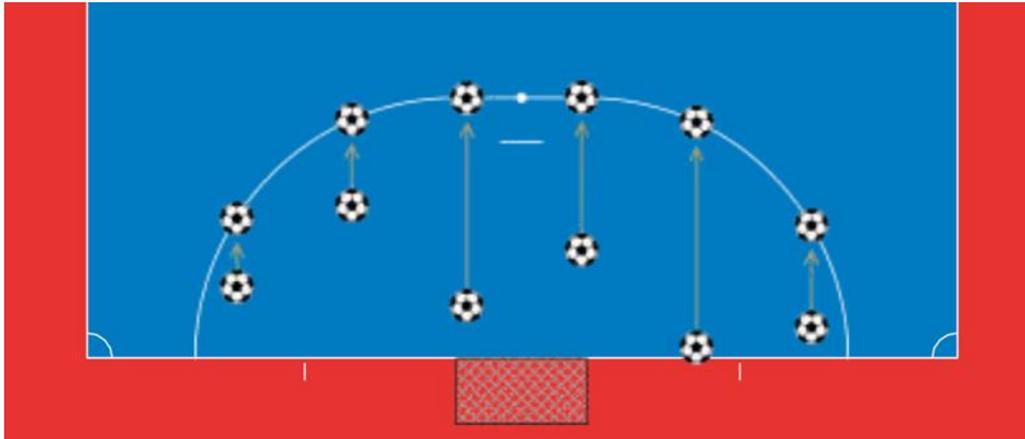
守備側チームの競技者が、キックが完了する前に反則をした場合、主審・第2審判はフットサル競技規則に従い、DFKSAF もしくはペナルティーキックを新たに行う、または再び行い、試合を続ける。

第8条—プレーの開始および再開

2. ドロップボール

進め方

- ・ プレーが停止されたときにボールがあった位置、または、最後に競技者、外的要因または審判員に触れた位置で、最後にボールに触れたチームの競技者の1人にボールをドロップする。ただし、守備側チームのペナルティーエリア内で最後にボールに触れたのが攻撃側チームであった場合を除く。この場合、プレーが停止された、または、最後に競技者、外的要因または審判員に触れた位置から最も近いペナルティーエリアの境界線上で攻撃側チームの競技者の1人にボールをドロップする。



(...)

- ・ ボールは、ピッチに触れたときにインプレーとなり、(いずれのチームの)どの競技者であってもボールをプレーできる。

第10条—試合結果の決定

3. ペナルティーマークからのキック

試合中に退場を命じられた競技者のキックへの参加は認められないが、試合中に示された注意や警告は、ペナルティーマークからのキックに繰り越されない。

(...)

ペナルティーマークからのキックの進行中

(...)

- ・ ゴールキーパーが反則を犯し、その結果キックを再び行うことになった場合、1 度目の反則であったなら、ゴールキーパーは、注意され、その後も反則を犯したならば、警告される。
- ・ 主審・第2審判がキックを行うよう合図した後に犯した反則でキッカーが罰せられる場合、キックは失敗として記録され、キッカーは警告される。
- ・ ゴールキーパーとキッカーの両方が同時に反則を犯した場合、キックは失敗として記録され、キッカーは警告される。

第12条—ファウルと不正行為

1. 直接フリーキック

競技者が次の反則のいずれかを犯した場合も、直接フリーキックが与えられる。

(...)

- ・ チームリストに記載されている者もしくは審判員をかむ、またはこれらに向かってつばを吐く。
- ・ ボール、相手競技者もしくは審判員に対して物を投げるもしくはけりつける、または持った物でボールに触れる、またはボールがゴールに触れるようにゴールを移動させる。

ボールを手や腕で扱う

ハンドの反則を判定するにあたり、腕の上限は、脇の下の最も奥の位置までのところとする。

競技者の手や腕にボールが触れることのすべてが、反則にはならない。

競技者が次のことを行った場合、反則となる。

- ・ 例えば手や腕をボールの方向に動かし、手や腕で意図的にボールに触れる。
- ・ 手や腕で体を不自然に大きくして、手や腕でボールに触れる。手や腕の位置が、その状況における競技者の体の動きによるものではなく、また、競技者の体の動きから正当ではないと判断された場合、競技者は、不自然に体を大きくしたとみなされる。競技者の手や腕がそのような位置にあったならば、手や腕にボールが当たりハンドの反則で罰せられるリスクがある。
- ・ 相手チームのゴールに次のように得点する。
 - 偶発的であっても、ゴールキーパーを含め、自分の手や腕から直接。
 - 偶発的であっても、ボールが自分の手や腕に触れた直後に。

競技者が体を不自然に大きくしておらず、偶発的に競技者の手や腕にボールが触れた直後にゴールにボールが入らなかった場合、プレーは続けられる。

2. 間接フリーキック

競技者が次のことを行った場合、間接フリーキックが与えられる。(…)

- ・ (フリーキックのときも含め)ゴールキーパーが手でボールに触れる触れないにかかわらず、競技規則の裏をかいて、頭、胸、膝などを用いボールがゴールキーパーにパスできるよう、意図的なトリックを企てる。ゴールキーパーが意図的なトリックを企てていたならばゴールキーパーが罰せられる。(…)

ゴールキーパーが次の反則のいずれかを犯した場合も、間接フリーキックが与えられる。(…)

- ・ 味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを自分自身のペナルティエリア内で、手や腕で触れる(キックインからを含めて)。

3. 懲戒処置

競技者および交代要員

カードを示すためにプレーの再開を遅らせる

主審・第2審判が(…)懲戒の罰則の処置をし終えるまでプレーを再開させてはならない。ただし、主審・第2審判が懲戒の罰則の手続きを始めておらず、反則を犯していないチームがすばやくフリーキックを行って、明らかな得点の機会を得た場合を除く。懲戒の罰則の処置は、次にプレーが停止されたときに行われる。なお、反則が相手チームの決定的な得点の機会を阻止したものであった場合、競技者は、警告されることになり、相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止したものであった場合、競技者は、警告されない。

アドバンテージ

警告や退場となるべき反則に対して主審・第2審判がアドバンテージを適用したとき、(…)

次にボールがアウトオブプレーに(…)しかしながら、反則が相手チームの決定的得点の機会を阻止するものであった場合、競技者は、反スポーツ的行為で警告され、反則が大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止したものであった場合、警告されない。

警告となる反則

反スポーツ的行為に対する警告

競技者が反スポーツ的行為で警告されなければならない状況は、様々である。(…)

- ・ ゴールがゴールキーパーによって守られているときに、ハンドの反則によってゴールに向かってボールを止める。
(…)
- ・ (フリーキックのときも含め)ゴールキーパーが手でボールに触れる触れないにかかわらず、競技規則の裏をかいて、頭、胸、膝などを用いボールがゴールキーパーにパスできるよう意図的なトリックを企てる。ゴールキーパーが意図的なトリックを企てていたならば、ゴールキーパーが罰せられる。

得点または決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)

ゴールがゴールキーパーによって守られていない、または守備側フィールドプレーヤーによってのみゴールが守られているときに、ゴールキーパーがペナルティーエリアの外で、ハンドの反則により相手の得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、ゴールキーパーは退場となる反則を犯したと考える。

ゴールキーパーによってゴールが守られてなく、他の DOGSO の基準に合致していた場合で、攻撃側競技者の数が守備側競技者(ゴールキーパーを除く)の数と同じまたはより多い場合、DOGSO の状況にあると考える。

4. ファウルや不正行為の後のプレーの再開

交代要員、退場で退いた競技者またはチーム役員が直接フリーキックとなる反則を犯した場合、そのチームの累積ファウルとしてカウントする。

(…)

ピッチの内外にかかわらず競技者が外的要因に対して反則を犯し、主審・第2審判がプレーを停止したならば、主審・第2審判の承認なくピッチから離れたことでフリーキックが与えられた場合を除き、プレーは、ドロップボールで再開される。

第13条—フリーキック

5. 各ピリオド6つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキック(DFKSAF)

進め方

(…)

*再開するときの競技者の位置は、競技者の足または体のいかなる部分のピッチについている位置によって判断される(フットサル用語を参照)。

反則と罰則

- ・ ボールがインプレーになる前に、(…)
 - 守備側ゴールキーパーが反則を犯して、
 - － ボールがゴールに入った場合、得点が認められる。
 - － ボールがゴールに入らなかった、またはクロスバーやゴールポストからはね返った場合、ゴールキーパーの反則が明らかにキッカーに影響を与えたときのみ、キックは、再

び行われる。

- ボールがゴールキーパーによりゴールに入るのを阻止された場合、キックは、再び行われる。

ゴールキーパーが反則を犯した結果キックが再び行われた場合、その試合において最初の反則については注意が与えられ、それ以降の反則には警告が与えられる。

- ・ 守備側ゴールキーパーの味方競技者が反則を犯して、
 - ボールがゴールに入った場合、得点が認められる。
 - ボールがゴールに入らなかった場合、キックは、再び行われる。反則した競技者はその試合において最初の反則については注意が与えられ、それ以降の反則には警告が与えられる。
- ・ 競技者がより重大な反則(例えば、認められていないフェイント)を犯した場合を除き、両チームの競技者が反則を犯した場合、キックは再び行われる。反則した競技者はその試合において最初の反則については注意が与えられ、それ以降の反則には警告が与えられる。
- ・ 守備側ゴールキーパーとキッカーが同時に反則を犯した場合、キッカーは警告され、プレーは、守備側チームの間接フリーキックで再開される。

第14条ーペナルティーキック

2. 反則と罰則

ボールがインプレーになる前に、(...)

- ・ 守備側ゴールキーパーが反則を犯して、
 - ボールがゴールに入った場合、得点が認められる。
 - ボールがゴールに入らなかった、またはクロスバーやゴールポストからはね返った場合、ゴールキーパーの反則が明らかにキッカーに影響を与えたときのみ、キックは、再び行われる。
 - ボールがゴールキーパーによりゴールに入るのを阻止された場合、キックは、再び行われる。

ゴールキーパーが反則を犯した結果キックが再び行われた場合、その試合において最初の反則については注意が与えられ、それ以降の反則には警告が与えられる。

- ・ 守備側ゴールキーパーの味方競技者が反則を犯して、
 - ボールがゴールに入った場合、得点が認められる。
 - ボールがゴールに入らなかった場合、キックは、再び行われる。
- ・ 守備側ゴールキーパーとキッカーが同時に反則を犯した場合、キッカーは警告され、プレーは守備側チームの間接フリーキックで再開される。

第15条ーキックイン

1. 進め方

ボールをけり入れるとき、(...)

- ・ キッカーのみピッチの外にいてもよい(フットサル競技規則が別に定める場合を除く―「フットサル審判員のための実践的ガイドライン」にある「競技規則の解釈およびレフェリングに求められること」の「ピッチから出る(認められる)」を参照)。

(...)

キックインが行われ、そして、ボールがインプレーになったのち、いずれの競技者にも触れられず、キックインが行われたサイドのタッチラインから外に出た場合、相手チームにキックインが与えられる。キックインは、ボールがピッチを出た場所から行われる。

2. 反則と罰則

その他の反則があったならば、キックインが4秒以内に行われなかった場合も含めて、相手チームにキックインが与えられる。

第16条―ゴールクリアランス

2. 反則と罰則

ゴールクリアランスが4秒以内に行われなかった場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

第17条―コーナーキック

1. 進め方

- ・ ボールがインプレーになるときに、キッカーのみピッチの外にいてもよい(フットサル競技規則が別に定める場合を除く―「フットサル審判員のための実践的ガイドライン」にある「競技規則の解釈およびレフェリングに求められること」の「ピッチから出る(認められる)」を参照)。

2. 反則と罰則

その他の反則があったならば、コーナーキックが4秒以内に、またはコーナーエリア内から行われない場合を含めて、ゴールクリアランスが相手チームに与えられる。

複数の条文にかかわる変更

第 4、5 および 12 条ならびに競技規則の解釈と推奨、また、フットサル用語集

暴力的ではないが不適切な行為

暴力的ではないが、(他人に攻撃的な態度で接するなど)幾つかの不適切な行為の形態は「攻撃的な」、「侮辱的な」または「下品な」、退場を命じる反則であると考え、関係する箇所の表現を「身振り/身振りをする」から「行動/行動する」に変更する。